

平成24年度 第3回 豊田市行政経営懇話会 会議録

【日時】 平成25年1月23日（水）午前10時00分～午前12時00分

【場所】 豊田市役所南52会議室（南庁舎5階）

【出席者】（委員） 足立 潔重 （連合愛知豊田地域協議会副代表）  
小幡 哲生 （豊田青年会議所理事長）  
加藤 淳治 （豊田市区長会副会長兼会計）  
澤田 恵美子 （豊田市消費者グループ連絡会会長）  
清水 元久 （豊田市森林組合代表理事組合長）  
田端 稔 （豊田商工会議所副会頭）  
千葉 晃嗣 （豊田市ボランティア連絡協議会監事）  
星山 いく子 （市民公募委員（株）アンジュクール代表取締役）  
三崎 祐子 （豊田市ファミリー・サービス・クラブ会長）  
村林 聖子 （愛知学泉大学現代マネジメント学部准教授）  
山崎 丈夫 （愛知学泉大学附属コミュニティ政策研究所  
客員研究員）《会長》

（計11人）

【欠席者】（委員） 宇野 幸伸 （あいち豊田農業協同組合代表理事専務）  
杉山 恵美 （豊田市国際交流協会  
ボランティアグループひらがなういずゆー）  
南里 匡一 （豊田市PTA連絡協議会副会長）  
西原 香保里 （愛知みずほ大学人間科学部教授）

【事務局】 小栗 保宏 （産業部長）  
太田 庸介 （産業部専門監）  
山田 政則 （産業部産業労政課副主幹）  
杉本 憲彦 （産業部産業労政課係長）  
宇佐美 雅也 （産業部産業労政課主事）  
安田 明弘 （総合企画部調整監）  
前田 雄治 （総合企画部専門監）  
竹田 康孝 （総合企画部広報課長）  
疋田 一男 （総合企画部広報課係長）  
水野 智弘 （総合企画部企画課長）  
佐藤 英之 （総合企画部企画課副主幹）  
折原 亜矢子 （総合企画部企画課主事）

- 【次第】
- 1 開会
  - 2 事務局あいさつ
  - 3 会長あいさつ
  - 4 議事・(仮称) 第2次まちづくり基本条例戦略プランの策定について【協議】
    - ・豊田市民山の家「リゾート安曇野」の今後のあり方について【協議】
    - ・パブリックコメント実施状況について【報告】
  - 5 閉会
- 

(文責は事務局。訂正することがあります。)

#### 【総合企画部長あいさつ】

- ・（仮）第2次まちづくり基本条例戦略プランについては、本懇話会で2度ほどご意見をいただきながら策定を進めており、12月に実施したパブリックコメントの結果を取りまとめたところです。本日は、基本的な考え方と併せて行動計画の取りまとめ状況をご確認いただきたいと思います。
- ・ また、2つ目の議題として、現在のまちづくり基本条例戦略プランの行動計画のひとつである豊田市民山の家リゾート安曇野の今後のあり方についてご議論いただいた後で、最後に豊田市全体のパブリックコメントの実施状況についてご報告させていただきたいと思います。
- ・ 限られた時間の中ではありますが、委員の皆さんのご協力をいただきながら、有意義な会にしたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

#### 【会長あいさつ】

- ・ 今年度最後の懇話会は、協議事項が2つ、報告事項が1つとたくさんありますが、活発なご議論をお願いしたいと思います。

#### 【議事（1）】

##### ○会長

- ・ まず、行動計画一覧について、意見があればお願いします。

##### ○委員

- ・ 戦略方針1-1-3のところ、共働の事業の推進について、小項目を取りまとめた部分があったかと思いますが、小さな取組まで掲載する必要はあるのでしょうか。市民との共働の中で、色々な発展の可能性のある事業を文字化することで、かえって固定化されないか心配です。

##### ○事務局

- ・ 毎年度の区切りにおいて、各所管と話をしながら、修正点についてはまた改めて文字化していくという作業をしていますので、これを掲載することで固定化してしまうということはないと思っています。逆に、個々の取組としては充分効果のある取組を束ねてPRしていく必要があると考えています。

##### ○委員

- ・ 地域内循環を高める契約制度の検討の部分で、組合では公契約条例について検討をしていただきたいということが話題になります。この条例は、下請けや孫請けまで含めて労働者の賃金水準を確保した上で品質の高い工事をしていくということが主旨です。プランの内容は、地域内の事業活動について縛るようなものではないかとは思いますが、そういったエッセンスを取り入れていただければと思います。

##### ○事務局

- ・ プランでは、域内の企業が力を発揮出来るだけの環境を作りたいといったようなざっくりとしたことが書かれています。具体的な検討については、来年度以降に実施していきたいと思っています。

##### ○委員

- ・ 見せる化の徹底については、2つ概念があると思います。1つはディスクローズとあって「開示」を意味するもの、もう1つは企業でいう宣伝対策費のような能動的に情報を出していくものですが、プランの内容を見る限りでは後者のように思えます。そのことを考える際に大切なのが費用対効果で、あることを市民に発信したことによって得られる効果をはっきりとしておく必要があると思います。見せる化という聞こえはいいですが、概念を整理した上で、費用対効果を明らかにしていくべきだと思います。

○事務局

- ・ 見せる化については、市役所としては情報の開示をしているつもりなのですが、なかなか届いていないという声を頂戴しており、その辺りをメディアの活用を通じて工夫していきたい、ということが趣旨としてあります。また、情報を必要としていると思われる方をターゲットとして定めて、その方に対してどういうアプローチをするのか少し研究していきたいという意味合いを込めて、見せる化という言葉を使っていますので、意図は合致していると思います。費用対効果については、また検討していきたいと思います。

○委員

- ・ 行動計画の表現について、市がどのようなスタンスで取り組んでいくかという印象のものと、個々の計画のものと、バラつきがある気がします。

○事務局

- ・ 先ほどの質問にも関わってきますが、細かな事業については、まず掲載するかどうかについても議論がありました。例えば共働についても、地域支援課が行う共働の仕組みについての取組もあれば、個々の事業についての取組もあり、様々な性質のものが混在しているという部分があります。しかし、個々の取組を省いてしまうと、大部分が市役所の一部の部署に限られたものになってしまい、他の部局としてはやらされ感が出てきます。できるだけ多くの部局に関わってもらうことで、職員に主体的に行動をしていてもらいたいと思っています。表現の推敲が甘い部分については、検討します。

○委員

- ・ プランの内容としては特に問題ないかと思いますが、表現についてはもう少し統一されると良いと思います。また、カタカナの言葉については、せめて括弧で日本語訳をする等してもらえると、市民も分かりやすいのではないかと思います。

○事務局

- ・ 検討します。ありがとうございます。

○委員

- ・ この計画は、どの程度の情報が公表されるのでしょうか。この一覧を見ると、何をいつまでにという目標がないように思えます。また、具体的に何をするのが見えません。

○事務局

- ・ 今回の懇話会では、大きな方針と行動計画のラインナップを提示していますが、市民に公表する段階では、年次目標と3年間の目標値を含めて公開していく予定です。

○委員

- ・ 質問ではないのですが、意見として、各課の取り組みについて重複していることや関連していることがあれば、それを示していただければと思いました。

○会長

- ・ 地域経営という考え方について、意見はありますか。

○委員

- ・ 地域経営という言葉を見たときに、また地域の仕事が増えるという印象を抱きました。共働と同じような意味かもしれませんが、地域経営という言葉だけ独り歩きしないか心配です。

○事務局

- ・ 地域経営については、市民の方に何かを強いるという意図はありません。行政の視点だけで考えるのではなく、地域を視点にして仕事をしていこうという意図です。

○委員

- ・表現について、地域経営の説明部分で「地域に住む・・・」とあるものは「地域に暮らす」でも良いのではと思いました。また、行政と市民の関係性の図で、矢印が行政側からだけ出ていますが、市民側からの矢印を出しても良いのではないかと思います。豊田市の共働の良い点は、市民との対等性にあると思いますので、そのような部分を表現できると良いのではないのでしょうか。それから、概念図について、今はまちづくり基本条例の基本理念から矢印が出ていますが、逆に、基本理念に向かっていくという表現にしても良いと思います。

○事務局

- ・基本条例の目指すところが、今下書に書いてある自立した地域社会の実現なので、実は基本条例は2回出てきているのですが、そのことが分かるように、工夫してみます。ありがとうございます。

○委員

- ・地域経営体と地域経営システムのイメージ図で、市役所の改革のところに、職員のやる気や自発性を高め、市役所の仕事の質を向上させるとありますが、これは、地域経営システムを構築しなければ職員はやる気や自発性は高まらないということですか。

○事務局

- ・行政改革を進める上で、職員のやる気やモチベーションを高めることも1つの要素として重要であるということですが。構築しなければやる気が向上しないわけではありません。

○会長

- ・色々な意見が出ましたが、今回意見があった部分については是非生かして行ってほしいと思います。

【議事（2）】

○会長

- ・この施設そのものが、非常に公費負担が多くなってきているということや、中山間地域に温泉を持っている地域もある等、合併を経て、施設を作った時点から状況が変わっていることを踏まえて、この施設についてどう考えるべきかについて、ご意見をお願いします。

○委員

- ・余暇の目的の変化で、知的好奇心を満たすという項目のポイント数が上がっているのですが、もし今後この施設を継続していくのであれば、そういったもののエッセンスを入れて、集客稼働率を上げていく等の工夫が必要かと思います。また、平成3年当時は1泊2食付でこの値段は安かったと思いますが、今は一般企業でもこの程度の値段で泊まれるところはたくさんあるかと思いますが、まずそういったところをもう一度精査していただきたいと思います。

○委員

- ・この施設は、高齢者などは割引があるのが魅力で、それがきっかけにこの施設のリピーターになるということがあります。また、豊田市にもこの施設を知らない方がたくさんみえます。そういったPRについては、今までどの程度されてきたのかということも少しお伺いしたいと思います。

○事務局

- ・最後に言われたPRについては、指定管理制度を導入してから、格段に利用者が向上しました。安曇野にいただけではなく、こちらにりんごを持ってきたりする等、PRを最近かなり積極的に行っています。また、利用者を増やすために、スケッチツアー付きの宿泊プランや高齢者向けの囲碁トーナメント付きのプ

ランを出す等の自主事業は積極的になってきました。ただし、利用者の増加については、繁忙期についてはほとんど予約が取れないような状態で、平日にもっと使っていただければ、100%になるのではないかと思います。これ以上はなかなか望めないのかなとも思います。ただし、今の料金体系のままでは、客室稼働率が仮に100%になったとしても、公費負担率56%が格段には改善されません。公費負担率の改善には、料金値上げしかないと思いますが、安曇野という遠方にあることも踏まえて、どこまでの料金アップが利用者の方に受け入れられるかは推し量れない部分があります。

○委員

- ・ こういった施設は、景気の良い時期に、財政の豊かな都市があちらこちらに作っていて今日に至っています。豊田市もその1つだと思いますが、今、市内でいうと稲武にどんぐりの湯があったり、藤岡に温泉があったりします。稲武の例を見ると、地域の人たちがそこで農産物を売ったりして地域の経済活動が活発に行われていて、効果をあげています。これを踏まえて、もったいないかとは思いますが、この際廃止するなら廃止して、市内で市民の人たちがもっと気軽に外かけて利用できる施設に転換した方が良いのではないかと思います。

○委員

- ・ 1人あたりの経費が17,000円というお話がありましたが、コストが高い印象を持ちました。具体的にはどのような経費がかかっていますか。

○事務局

- ・ 一番高いのが人件費で、次が食事を提供するための材料費、そして燃料費です。経費の削減については、お客様に直結しない部分でシミュレーションをしたのですが、3割カットしても公費負担率は50%を切るくらいまでしか下がりません。こういう負担率を劇的に変えていくには、料金の値上げしかないのではないかと考えています。

○委員

- ・ 私は、逆にもっと公費を投入してでも充実して利用率を上げるべきではないかと思っています。そして、住民サービスとしてどんどん利用してもらいましょう。そうすれば全体としてのコストが下がるのではないのでしょうか。先ほど市内の施設の話が出ましたが、それはそれで地域の人たちが活用すれば良いと思います。

○委員

- ・ 私は、豊田で生まれて豊田で育ちましたが、この施設のことを知りませんでした。半数がリピーターということですので、1回でいいから来てもらうことが重要だと思います。見せる化というのであれば、そういったところに力を入れていくべきです。また、平日の稼働率についてですが、平日料金と休日料金とに分けて売っていくことも必要かと思っています。

○事務局

- ・ 料金については、平日と休前日では分けてはいます。

○委員

- ・ 行政が持っている保養施設として、障がいを持っている人やそういった子どものいる家族などが気軽に使える施設だと思いますので、そういった層を前提とした利用を考えると良いのではないのでしょうか。行政の施設だからこそこまで出来るという面もあっても良いのではないかと思います。

○委員

- ・ やはり、長野県の安曇野というところに魅力があるのではないかと思います。豊田市からそちらに行く

には、高速代や自動車、ガソリン代など色々なものを使います。豊田の農山村にも魅力があり、両方に良いところがあると思います。豊田市の自然をもう少し活用すべきではないかと思います。

○会長

- ・ 改善につながる意見や、PRの方法に関する意見に加え、市内の資源を活用すべきだという意見もありました。今後のあり方については、委員の方々の意見を参考に進めていただきたいと思います。

(終 了)